# 特定非営利活動法人みなと外遊びの会定款

## 第１章　総則

（名称）

第１条　この法人は特定非営利活動法人みなと外遊びの会という。

（事務所）

第２条　この法人は、主たる事務所を東京都港区芝四丁目７番６号芝ビルディング704に置く。

（目的）

第３条　この法人は、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとしたプレーパークや、その他、子どもの遊び場・居場所の運営や、関連するさまざまな事業を通じて、子どもの自主性や自律性を高め、生きる力や社会力を育む社会の実現に貢献し、もってすべての子どもと保護者、地域の住民の福祉に寄与することを目的とする。

（特定非営利活動の種類）

第４条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

（１）　子どもの健全育成を図る活動
（２）　社会教育の推進を図る活動
（３）　まちづくりの推進を図る活動
（４）　環境の保全を図る活動
（５）　地域安全活動
（６）　人権の擁護又は平和の推進を図る活動
（７）　男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
（８）　前各号に揚げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

（事業の種類）

第５条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動に関わる事業として次の事業をおこなう。

（１）プレーパーク運営事業
（２）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 第２章　会員

（種別）

第６条　この法人の会員は次の２種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

（１）正会員　　この法人の目的に賛同して入会した個人および団体
（２）賛助会員　この法人の目的に賛同して賛助するために入会した個人および団体

（入会）

第７条　会員の入会について特に条件は定めない。

２　会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。

３　理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

４　理事長は、第２項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（会費）

第８条　会員は、毎年一回会費を納入しなければならない。

２　会費の額は、総会において決める。

３　会費の返還はしない。

（会員の資格の喪失）

第９条　会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

（１）退会届の提出をしたとき。

（２）本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、または会員である団体が消滅したとき。

（３）正当な理由なく会費を一年以上滞納し、催告を受けてもそれに応じず、納入しないとき。

（４）除名されたとき。

（退会）

第１０条　正会員及び賛助会員は、理事長が別に定める退会届けを理事長に提出して、任意に退会することができる。

（除名）

第１１条　会員が次の各号の一に該当する場合は総会の議決によりこれを除名することができる。

（１）この定款に違反したとき。

（２）この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

２　前項規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会をあたえなければならない。

## 第３章　役員及び職員

（種別及び定数）

第１２条　この法人に次の役員を置く。

（１）理事　　５人以上

（２）監事　　１人以上

２　理事のうち１人を理事長とし、１人以上２人以内の副理事長をおくことができる。

（選任等）

第１３条　理事及び監事は総会において正会員の中から選任する。

2　理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3　役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは３親等以内の親族が１人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び３親等以内の親族が役員の総数の３分の１を超えて含まれることになってはならない。

4　法第２０条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。

5　監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

（職務）

第１４条　理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2　理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

3　副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長が予め指名した順序によってその職務を代行する。

4　理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。副理事長が不在時に、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは理事の中から理事長が予め指名した順序によってその職務を代行する。

5　監事は、次に揚げる職務を行う。

（１）理事の職務執行の状況を監査すること。

（２）この法人の財産の状況を監査すること。

（３）前２号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

（４）前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

（５）理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、又は理事会の招集を請求すること。

（任期等）

第１５条　理事及び監事の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

2　前項の規定にかかわらず、任期満了前に、総会において後任の役員が選任された場合は、当該総会が終結するまでを任期とする。また、任期満了後、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

3　補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4　役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務をおこなわなければならない。

（欠員補充）

第１６条　理事又は監事のうち、その定数の３分の１を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

（解任）

第１７条　理事又は監事が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを

解任することができる。

（１）心身の故障のため、職務の遂行に耐えられないと認められるとき。

（２）職務上の義務違反、その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

（報酬等）

第１８条　役員は、その総数の３分の１以下の範囲内で報酬を受けることができる。

２　役員には、その職務を遂行するために要した費用を弁償することができる。

３　前２項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第４章　会議

（種別）

第１９条　この法人の会議は、総会および理事会の２種とする。

２　総会は、通常総会および臨時総会とする。

（総会の構成）

第２０条　総会は、正会員をもって構成する。

（総会の権能）

第２１条　総会は、以下の事項について議決する。

（１）　定款の変更

（２）　解散及び合併

（３）　会員の除名

（４）　事業報告及び決算

（５）　役員の選任及び解任

（６）　役員の職務及び報酬

（７）　会費の額

（８）　借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第４７条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄

（９）　解散における残余財産の帰属

（１０）その他、運営に関する重要事項

（総会の開催）

第２２条　通常総会は、毎年１回開催する。

２　臨時総会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

（１）理事会が必要と認め理事長に招集の請求をしたとき

（２）正会員総数の５分の１以上から会議の目的である事項を記載した書面を持って理事長に招集の請求があったとき

（３）第１４条第５項第４号の規定により、監事から招集があったとき

（総会の招集）

第２３条　総会は前条第２項第３号の場合を除き、理事長が招集する。

２　理事長は、前条第２項第１号及び第２号の規定による請求があったときは、その日から３０日以内に臨時総会を招集しなければならない。

３　総会を招集するときには、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも５日前までに通知しなければならない。

（総会の議長）

第２４条　総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

（総会の定足数）

第２５条　総会は、正会員総数の２分の１以上の出席がなければ開会することができない。

（総会の議決）

第２６条　総会における議決事項は、第２３条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の２分の１以上の同意があった場合は、議題とすることができる。

２　総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

３　理事又は正会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

（総会の表決権等）

第２７条　各正会員の表決権は、平等なるものとする。

２　やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面もしくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

３　前項の規定により表決した正会員は、前２条及び次条第１項の適用については、総会に出席したものとみなす。

４　総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

（総会の議事録）

第２８条　総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）日時及び場所

（２）正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

（３）審議事項

（４）議事の経過の概要及び議決の結果

（５）議事録署名人の選任に関する事項

２　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２人が記名押印又は署

名しなければならない。

3　前２項の規定にかかわらず、正会員全員が書面または電磁的記録による同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）総会の決議があったものとみなされた事項の内容
（２）前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
（３）総会の決議があったものとみなされた日及び正会員総数
（４）議事録の作成に係る職務を行なった者の氏名

（理事会の構成）

第２９条 理事会は理事をもって構成する。

（理事会の権能）

第３０条 理事会は次の事項を議決する。

（１）総会に付議すべき事
（２）総会の議決した事項の執行に関する事項
（３）その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項
（４）資産の管理の方法
（５）事務局の組織及び運営
（６）この定款の施行について必要な細則

（理事会の開催）

第３１条　理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

（１）理事長が必要と認めたとき。
（２）理事総数の２分の１以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
（３）監事から第１４条第５項第５号の規定に基づき招集の請求があったとき。

（理事会の招集）

第３２条　理事会は、理事長が招集する。

2　理事長は、前条第２号の規定による請求があったときは、その日から１４日以内に理事会を招集しなければならない。

3　理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面または電磁的方法により開催の日の少なくとも５日前までに通知しなければならない。

（理事会の議長）

第３３条　理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

（理事会の議決）

第３４条　理事会における決議事項は第３２条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した理事の２分の１以上の同意があった場合は、議題とすることができる。

2　理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（理事会の表決権等）

第３５条　各理事の表決権は、平等なるものとする。

2　やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面もしくは電磁的方法をもって表決することができる。

3　前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第１項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4　理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

（理事会の議事録）

第３６条　理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）日時及び場所

（２）理事総数及び出席者数及び出席者氏名（書面又は電磁的方法による表決者がある場合にあっては、その旨を付記すること。）

（３）審議事項

（４）議事の経過の概要及び議決の結果

（５）議事録署名人の選任に関する事項

2　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２人が記名押印又は署名しなければならない。

## 第５章　資産

（資産の構成）

第３７条　この法人の資産は、次の各号に揚げるものをもって構成する。

（１）設立当初の財産目録に記載された資産

（２）会費

（３）寄付金品

（４）財産から生じる収益

（５）事業に伴う収益

（６）その他の収益

（資産の区分）

第３８条　この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

（資産の管理）

第３９条　この法人の資産は、理事長が管理する。その方法は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第６章　会計

（会計の原則）

第４０条　この法人の会計は、法27条各号に揚げる原則に従って行わなければならない。

（会計の区分）

第４１条　この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計とする。

（事業年度）

第４２条　この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

（事業計画及び予算）

第４３条　この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

（暫定予算）

第４４条　前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は理事会の決議を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じて収益費用を講じることができる。

２　前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

（予算の追加及び更正）

第４５条　予算成立後に、やむを得ない事由が生じたときは、理事会の決議を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

（事業報告及び決算）

第４６条　この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

２　決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

（臨機の措置）

第４７条　予算をもって定めるもののほか、借入金の借り入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第７章　定款の変更、解散及び合併

（定款の変更）

第４８条　この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、法第２５条第３項に規定する事項については所轄庁の認証を得なければならない。

２　この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

（解散）

第４９条　この法人は、次に揚げる時由により解散する。

（１）総会の決議

（２）目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

（３）正会員の欠亡

（４）合併

（５）破産手続開始の決定

（６）所轄庁による設立の認証の取り消し

２　前項第１号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の４分の３以上の議決を得なければならない。

３　第１項第２号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない、

（残余財産の帰属）

第５０条　この法人が解散（合併又は破産開始手続き開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第１１条第３項に揚げる者のうち、総会において議決したものに譲渡するものとする。

（合併）

第５１条　この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の４分の３以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第８章　公告の方法

（公告の方法）

第５２条　この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法２８条の２第１項に規定する賃借対照表の公告については、この法人のホームページにおいて行う。

## 第９章　事務局

（事務局の設置）

第５３条　この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置することができる。

２　事務局には、事務局長および必要な職員をおくことができる。

（職員の任免）

第５４条　事務局長及び職員の任免は理事長が行う。

（組織及び運営）

第５５条　事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

（細則）

第５６条　この定款の施行について必要な細則は、理事会の決議を経て、理事長がこれを定める。

附則

1. この定款はこの法人の成立の日から施行する。
2. この法人の設立当初の役員は、次に揚げる者とする。

| | |
|---|---|
| 理事長 | 小川　博久 |
| 副理事長 | コノリー　さやか |
| 副理事長 | 鈴木　眞知子 |
| 理事 | 竹内　孝子 |
| 理事 | 廣田　千秋 |
| 理事 | 瀬能　正実 |
| 理事 | 木　紀代子 |
| 監事 | 中村　正光 |

3. この法人の設立当初の役員の任期は、第１５条第１項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成３１年６月３０日までとする。
4. この法人の設立当初の事業年度は、第４２条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成３１年３月３１日までとする。
5. この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第４３条の規定にかかわらず、この法人の設立総会の定めるところによるものとする。
6. この法人の設立当初の会員会費は、第８条の規定にかかわらず、次に揚げる額とする

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年会費 | 正会員 | 個人 | 3,000 円 |
| | | 任意団体 | 5,000 円 |
| | | 法人 | 10,000 円 |
| | 賛助会員 | 個人 | １口 3,000 円（１口以上） |
| | | 任意団体 | １口 5,000 円（１口以上） |
| | | 法人 | １口 10,000 円（１口以上） |